



令和5年9月／発行：葛飾区都市整備部都市計画課（担当：新沼・竹内）／電話：03-5654-8382

## 高砂地区震災復興まちづくり訓練がはじまりました！ ガイダンスを実施しました！！

当日の資料などは、区のホームページでご覧いただけます

トップページ>暮らし・手続き>安心・安全>防災・国民保護>お知らせ>震災復興まちづくり訓練について

8月19日（土）14時00分から「高砂地区 震災復興まちづくり訓練 ガイダンス」を開催しました。

「震災復興まちづくり訓練」とは、高砂地区で震災を想定し「どのように住まいを再建するか」「どんなまちに復興していきたいか」を地域の皆さんと区職員で話し合う訓練です。訓練を通して、震災時に地域の皆さんと葛飾区と一緒に復興を進めていくための手引きとなる「高砂地区震災復興の進め方」をまとめる予定です。

この「ふっこう訓練通信」では、各回の訓練の様子をご紹介します。



ガイダンスの様子

### 今後の訓練スケジュール

会場：高砂地区センター 3階ホール  
時間：14時00分～16時00分

- ▶ **第1回訓練** 令和5年10月 7日（土）「地域協働の重要性を学び、被災後の『住まい』の復興を考える」
- ▶ **第2回訓練** 令和5年11月25日（土）「被災後の『都市』の復興を考える」
- ▶ **第3回訓練** 令和5年 1月27日（土）「高砂地区震災復興の進め方」をまとめよう

### ガイダンス（令和5年8月19日） 「復興について学ぶ」の概要

ガイダンスでは、地域の方々28名にご参加いただき、「復興について学ぶ」と題して、区の防災・復興対策や訓練概要の説明のほか、特別講演（神戸からオンライン中継）により地域協働復興・事前復興の重要性を学びました。

訓練の詳細は以下をご覧ください。

### ガイダンスの内容

- （1）発災からの避難・生活再開に向けて
- （2）復興のイメージづくり（DVD上映）
- （3）講演  
「『地域のまとまりが、早期の復興を促す』～阪神・淡路大震災からの学び～」  
NPO 法人 神戸まちづくり研究所 副理事長  
松原 永李 氏
- （4）解説 東京都立大学 中林 一樹 名誉教授
- （5）今後の予定

### （1）「発災からの避難・生活再開に向けて」

- ・震度6弱から6強の首都直下地震が発生した時、葛飾区では、283人の死者、4,589棟の建物全壊や5,137棟の焼失、区内広範囲で液状化の発生など大きな被害が想定されています（※）。
- ・発災直後は、まず自身の安全を確保します。その後一時集合場所にて近所の方々と被害状況を共有し、被害の程度によって、避難場所への避難や避難所生活が必要になります。
- ・地震発生時や復興時には、自助、共助、公助が相互に連携する必要があります。

※首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月東京都公表、都心南部地震の場合）。焼失棟数は倒壊棟数を含まない。

## (2) 講演「『地域のまとまりが、早期の復興を促す』

～阪神・淡路大震災からの学び～

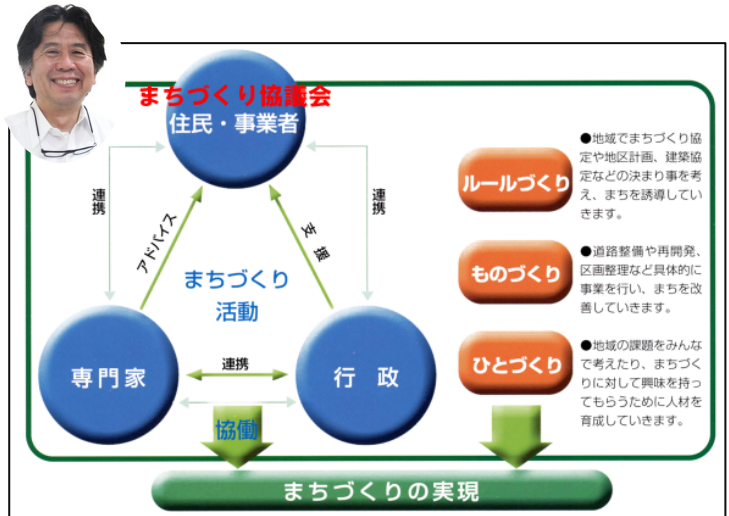
NPO 法人 神戸まちづくり研究所 副理事長 松原 永李 氏

### ●地域住民（まちづくり協議会）・行政・専門家による協議体制を整えておくこと

阪神・淡路大震災では、土地区画整理事業や再開発事業が行われた黒地地域に対し、事業を行わなかった白地地域では、地域や権利者のまとまりがなければ、ほとんど行政からの支援を得られず、自力で再建するしかありませんでした。

そのため、まちづくり協議会（＝住民や権利者がまちの将来の姿を話し合い、地域の意見をまとめる場）が中心となり、行政・専門家とともに合意を重ね復興を進めました。

復興まちづくりを進める上で、地域内に多世代で協議できる体制が確保されていることが、非常に重要でした。



### ●災害復興において重要なもの

阪神・淡路大震災での復興まちづくりの課題は、借家人の多くが、希望しながらも、もと住んでいた地域に戻れなかったこと、復興公営住宅等で被災者の孤立化が進んだことなどが挙げられます。

これらの課題解決に向けては、地域の絆（コミュニティ）が重要となります。今回の震災復興まちづくり訓練を通じて、地域の絆（コミュニティ）を深めていくことが大切です。

## (3) 解説 東京都立大学 中林 一樹 名誉教授

- ・復興には、「被災者復興」と「被災地復興」の2つがあります。  
被災者復興：罹災証明を受けた被災者が、いかに我が家の生活を復興するかという被災家族の住まいや生活の復興。  
被災地復興：被害が集中した地区で、安全でより快適に住むことができるようにみんなで取組む復興まちづくり。
- ・高砂地区が被災した際に、より良いまちに復興していけるよう一人一人の被災者復興とともに、被災地復興についても一緒に考えていきましょう。

訓練各回と全体の  
アドバイス・解説をいただきます



### 【参加者から頂いたご意見・ご質問と区の考え方】

**Q1** 防災マップをもらったが、避難所の役割はわかるが、一時集合場所の役割がわからない。

**A1** 一時集合場所は、各自治町会が指定しており、地域の皆さんの安否確認や必要なら避難場所に避難する体制づくりのために最初に集まる場所です。今後の行動を判断するために、近所の方々と被害状況等の情報交換を行う場所としての役割があります。もし近くで火災が発生していて延焼の危険がある場合には、避難場所へ避難をする流れになります。

**Q2** 地域単位的全焼等で全壊状態になった場合、葛飾区行政サイドの「まちづくり計画」の青写真はすでにできているのか。

**A2** 区では、都市計画マスタープランの地域別構想において、地域ごとの普段のまちづくり方針を定めています。また、同プランの全体構想では、「震災復興まちづくりの方針」を定め、地域の特性に応じた、取り組むべき事業手法のイメージを示しています。  
今回の震災復興まちづくり訓練では、こうしたまちづくりの方針を踏まえながら、地区単位での被害想定をもとに復興まちづくり計画骨子案を作成し、区と地域とで内容を共有し、震災発生に備えることとしています。

その他、多くのご意見をいただきました。その他のご意見・ご質問については、取りまとめの上、第1回訓練の際に区の考え方とともにお知らせいたします。